

# 福井県のがん登録

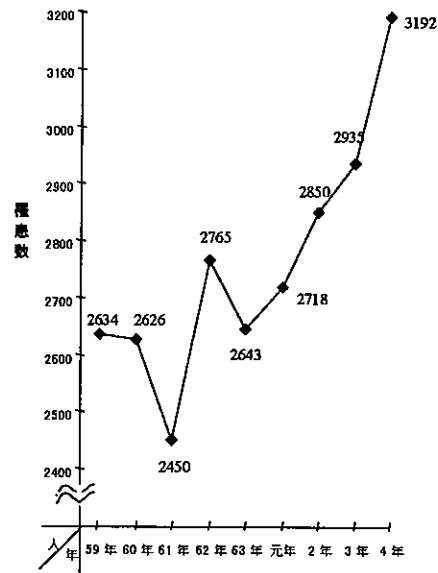
服部 昌和\*1,\*2, 藤田 学\*2, 松田 一夫\*2, 山崎 信\*2

## はじめに

福井県では、昭和 59(1984)年に県医師会主導による福井県悪性新生物実態調査を実施した。翌昭和 60(1985)年からは、福井県のがん登録事業に発展し、以降毎年継続実施されている。昭和 63(1988)年1月に登録患者の罹患、受療状況等の成績を初めて標準集計として報告し、以後毎年年報として報告してきた。さらに平成6(1994)年3月には開始 10 年のあゆみとして、「福井県のがんの実態—がん登録 10 周年記念—」誌を発行した。

そこで今回我々は、平成4(1992)年までの標準集計をもとに、福井県がん登録についての概要および成績、登録情報の活用例について、若干の検討を行ったので、これを報告する。

図1. 全部位がん罹患数の推移 -男女計-



## 1. 登録状況

登録方法は医療機関からの届出が主で、各医

療機関より県医師会へ届出票を送付し、それを県健康増進課内の登録室へ転送する方式で行

表1. 福井県がん登録精度(標準集計)

年	人口	悪性新生物		届出精度			診断精度			自主的届出登録率(%)
		罹患数	死亡数 D	DCO/I(%)	I/D	H/I(%)	H/R(%)	CH/R(%)		
昭和59	808774	2634	1339	11.7	1.97	67.5	82.1	82.1	77.3	
60	817633	2626	1427	9.3	1.84	67.9	80.3	80.3	80.2	
61	819281	2450	1339	6.2	1.83	70.7	80.5	80.5	82.3	
62	821521	2765	1416	3.5	1.95	73.1	80.1	80.1	81.2	
63	822856	2643	1475	1.2	1.79	76.4	82.2	82.2	81	
平成元	823943	2718	1583	2.4	1.72	75.5	81.9	81.9	78.8	
2	823585	2850	1576	2.1	1.81	72.5	78.8	78.8	79.5	
3	824581	2953	1565	4.2	1.89	74.0	82.1	82.1	80.6	
4	825515	3192	1622	3.6	1.97	73.5	81.2	81.2	79.2	

I: 罹患数(上皮内がんを含む) D: 死亡数 R: 届出患者数 H: 組織診実施数  
 CH: 細胞診または組織診実施数 DCO: 死亡票のみの者  
 自主的届出登録: 自主的届出による登録(罹患数から死亡票のみのもの及び補充票からの登録を除く)

\*1 市立敦賀病院 外科

\*2 福井県がん登録室

表2. 年齢調整罹患率(人口10万対)の推移 -男女計-

昭和59年～平成4年

	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	膀胱	リンパ	白血病
昭和59	209.5	1.9	63.2	15.8	9.4	11.4	7.9	7.5	21.4	12.1	11.2	4.6	6.8	4.8
60	204.4	1.9	62.1	14.9	10.0	11.6	9.9	5.9	20.1	13.0	10.2	4.3	5.7	5.4
61	183.5	2.4	57.7	16.5	9.4	10.8	7.4	6.7	14.5	12.4	8.6	4.0	5.2	3.0
62	203.3	3.0	56.4	18.1	11.0	12.1	7.2	6.7	20.1	12.6	11.3	4.7	7.1	3.6
63	187.8	2.2	55.1	17.9	10.2	13.1	8.8	6.6	16.9	10.8	7.2	3.7	4.4	3.7
平成元	191.2	2.3	59.3	16.9	10.1	12.4	9.2	6.9	19.1	10.8	6.7	4.4	6.1	3.9
2	195.6	2.6	55.5	17.2	12.3	13.1	8.8	6.1	18.4	14.1	9.6	4.1	6.0	3.5
3	198.5	2.7	54.4	16.9	10.6	12.6	7.0	6.4	17.6	15.9	9.5	4.8	7.6	3.7
4	210.9	2.6	54.3	20.8	10.3	14.4	8.4	8.3	22.0	15.3	8.2	5.2	5.6	3.5

っている。一部出張採録にもよっている。また、できるだけ正確な情報収集のために、補充票も活用している。

届出の精度は、表1のごとく、DCO率が昭和62(1987)年以降毎年5%以下、I/D比1.7~1.9である。また自主的届出登録率は77~82%であった。

図1は、全がんの罹患数の推移である。年々増加傾向を示し、平成4(1992)年には罹患数が3,000を超え、悪性新生物罹患数は男1,807人、女1,385人、であり、合計では3,192人であった。その後も3,200例前後を推移している。

表2では、主要部位の年齢調整罹患率(標準人口は世界人口)の推移を示している。全部位では昭和63(1988)年より増加傾向にあり、結腸、肝、肺、乳房などで増加傾向を示した。逆に胃、

子宮で減少傾向にあった。

年齢調整罹患率の全国推定値との比較を行った(表3)。平成4(1992)年の年齢調整罹患率は男264.6、女174.5であった。全国推定値に比して福井県では、男で甲状腺、胆嚢胆管、膵、胃が高く、食道、悪性リンパ腫、前立腺、直腸が低かった。女では、胆嚢・胆管、膵、結腸、甲状腺、乳房が高く、食道、卵巣、子宮、悪性リンパ腫などで低かった。

次に福井県では、毎年がん死亡情報との照合を行い、かつ平成2(1990)年からは毎年、診断から5年経過した届出患者のうち予後情報の得られなかったものを対象に予後調査を実施し、5年相対生存率を観察している。表4は、昭和59(1984)年、昭和62(1986)年、昭和63(1988)年の5年相対生存率を示している。各年の追跡率

表3. 年齢調整罹患率の比較 -福井県と全国推定値- 主要部位別、性別

-平成4年-

部位	ICD-9	年齢調整罹患率				福井/全国	
		男		女		男	女
		福井	全国	福井	全国		
全部位1	140-208,2330,2331	264.6	257.6	174.5	162.6	1.03	1.07
全部位2	140-208	264.6	257.6	166.4	156.1	1.03	1.07
食道	150	5.3	9.3	0.6	1.3	0.57	0.46
胃	151	81.3	73.0	33.1	30.5	1.11	1.09
結腸	153	23.5	23.4	18.8	14.7	1.00	1.28
直腸	154	13.3	15.3	7.8	8.3	0.87	0.94
肝臓	155	23.8	25.6	6.7	7.1	0.93	0.94
胆嚢胆管	156	8.1	6.5	8.9	6.2	1.25	1.44
膵臓	157	10.1	9.0	7.2	5.0	1.12	1.44
肺	162	39.2	36.0	9.0	9.5	1.09	0.95
乳房	174,233.0			29.9	26.1		1.16
子宮	179-182,2331			16.0	19.0		0.84
浸潤	179-182				13.1		
頸	180				8.3		
体	182				3.4		
卵巣	181			4.0	5.9		0.68
前立腺	185	7.0	8.3			0.84	
膀胱	188	9.6	8.5	1.8	2.0	1.13	0.90
甲状腺	193	3.8	1.5	8.2	6.6	2.53	1.24
悪性リンパ腫	200202	5.4	6.4	3.3	3.7	0.84	0.89
多発性骨髄腫	203	2.1	1.6	0.4	1.0	1.31	0.40
白血病	204-208	5.3	4.9	3.6	3.3	1.08	1.09

全国年齢調整罹患率(推定値)は平成2年の罹患率として推計されたものである。

表4. 主要部位別5年生存率 —福井県がん登録・確定集計 罹患者および届出患者・男女計—

部位	ICD-9	昭和59年, 61年, 63年											
		A. 罹患者						B. 届出患者					
		罹患者数			5年相対生存率			罹患者数			5年相対生存率		
全部位1	140-208	59	61	63	59	61	63	59	61	63	59	61	63
	2330, 2331	2,495	2,508	2,689	36.2	41.1	41.1	2,329	2,424	2,676	38.8	42.5	41.2
全部位2	140-208	2,457	2,484	2,662	35.2	40.5	40.5	2,291	2,400	2,649	37.8	41.9	40.6
食道	150	20	31	36	17.2	17.6	18.2	18	31	34	19.1	18.2	19.3
胃	151	741	773	783	48.8	51.1	50.8	710	758	782	50.9	52.1	50.9
結腸	153	193	223	248	34.0	54.5	62.7	178	222	247	36.8	54.7	63.0
直腸	154	124	123	137	38.3	56.2	56.9	118	120	137	40.2	57.6	56.9
肝臓	155	150	153	195	2.8	7.6	8.3	129	140	193	3.3	8.3	8.3
胆嚢胆管	156	103	117	149	9.8	8.7	12.0	90	108	149	11.2	9.4	12.0
膵臓	157	92	108	109	2.3	1.9	2.1	81	101	109	2.6	2.1	2.1
肺	162	272	244	269	6.1	7.9	9.8	241	234	268	6.9	8.3	9.9
乳房	174,175	125	139	130	76.0	76.3	81.0	123	138	130	77.2	76.8	81.0
子宮	179-182,2331	120	116	86	72.7	71.6	63.6	119	115	86	73.3	72.2	63.6
卵巣	183	29	39	30	50.2	32.4	40.3	28	35	30	52.0	36.1	40.3
前立腺	185	56	48	40	32.2	36.2	49.8	53	47	40	34.0	37.0	49.8
膀胱	188	65	60	66	60.5	71.9	59.6	65	59	66	60.5	73.1	59.6
甲状腺	193	40	39	42	69.4	67.1	91.2	40	38	42	69.4	68.8	91.2
リンパ組織	200-203	82	66	78	22.5	27.5	30.1	78	65	77	23.7	27.9	29.0
白血病	204-208	59	29	57	10.5	11.8	15.0	50	24	57	12.4	14.2	15.0

は平均 98.7%であった。昭和 63(1988)年の全部位5年相対生存率は、41.1%であった。福井県では特に胆嚢・胆管、膵、肝、肺で低値を示した。

届出票については、平成8(1996)年より登録室の移動、作業コンピュータの入れ替えなどがあり、また自主的届出登録率の向上を図るために病理組織診断の記載欄を中心とした届出票の簡素化を行った。福井県の届出票の特徴としては、主に集団検診を施行したがんについて、その進行度の記載欄を設けている点あげられる。このデータは、がん検診の精度評価等に利用されている。これら変更前後の自主的届出登録率の変化については、現在観察中である。

## 2. 登録情報の活用

最近の活動として、登録室では、がん検診の精度評価〔胃がんおよび大腸がん集検の偽陰性例の計測および臨床病理学的検討〕を行っている。

それぞれの集団検診受診者ファイルとがん登録ファイルとを突き合わせ、それぞれの偽陰性の定義に当てはまる症例を拾い上げ、臨床病理学的検討を行い、偽陰性となる理由を検討し、

福井県における集団検診の評価を行っている。その成績については、論文発表も行っている<sup>1-4)</sup>。

おわりに

今後さらに、登録精度の維持、向上と登録情報の活用にも努める必要があると考えている。

## 文献

1. 松田一夫, 武田孝之, 山崎 信: 福井県がん登録との照合による大腸集検後の精検の精度の検討. 消化器集団検診, 34: 342-347, 1996.
2. 松田一夫, 山崎 信: 大腸集検における中間期癌—福井県がん登録との記録照合による検討. 消化器集団検診, 36: 45-50, 1998.
3. 松田一夫, 武田孝之: 福井県における大腸集検後の精検法の推移と精検偽陰性例の検討. 消化器集団検診, 36: 227-232, 1998.
4. 服部昌和, 藤田 学, 細川 治他: 地域がん登録を利用した胃集団検診偽陰性例の臨床病理学的検討. 消化器集団検診, 36: 468-475, 1998.